

小腸がん（しょうちょうがん）

小腸について

小腸は、胃と大腸の間にある消化管で、長さは約6~7メートルにも及ぶ細長い臓器です。小腸は、さらに十二指腸、空腸、回腸の3つの部分に分けられます。十二指腸については、「十二指腸がん」をご覧ください。ここでは、空腸と回腸のがんについて記載しています。

空腸は、栄養素の消化と吸収の大部分を担う部分です。その後に食物が流れていく回腸は栄養素の吸収の最終段階を担い、大腸へと内容物を送る部分になります。

小腸は、食べ物から栄養素を吸収し、体に必要なエネルギーや成分を供給する重要な役割を担っています。

小腸がんについて

小腸がんは、小腸に発生する悪性腫瘍の総称です。消化管の中で小腸は最も長い部分を占めますが、小腸がんは全消化管がんのなかでは比較的まれです。

小腸がんには以下の主な組織型があります。

- 腺がん (Adenocarcinoma)
- 神経内分泌腫瘍 (Neuroendocrine tumor, NET)
- 悪性リンパ腫 (Lymphoma)
- 肉腫 (GIST や平滑筋肉腫)

このうち、神経内分泌腫瘍が最も多く、ついで腺がんが多いとされています。ここでは腺がんについて解説しています。

小腸腺がんの原因は不明です。リスク因子に喫煙やアルコール、高脂肪食などの食生活が報告されています。他にはクローン病や潰瘍性大腸炎などの自己免疫性疾患や家族性大腸腺腫症やポイツイエガス症候群、リンチ症候群などの遺伝性疾患などが知られています。

症状について

小腸腺がんは非特異的な症状を示すことが多く、腹痛、体重減少、貧血、腸閉塞症状などが主な臨床症状です。早期では多くの場合が無症状です。そのため、診断が遅れることがあり、進行した状態で発見されることが少なくありません。

診断について

小腸腺がんの診断には、以下のような検査が用いられます：

【血液検査】

- ・ CEA や CA19-9 といった腫瘍マーカーや貧血の有無などを確認します。

【画像検査】

- ・ CT（コンピュータ断層撮影）や MRI（磁気共鳴画像）：腫瘍の位置や転移（広がり）を調べるために行います。
- ・ PET-CT：離れた臓器への転移（遠隔転移）について全身的に調べることができます。

【内視鏡検査】

- ・ 上部消化管内視鏡（胃カメラ）：十二指腸のがんを調べるために行います。
- ・ 小腸内視鏡（ダブルバルーン内視鏡）：十二指腸より奥の病変も観察が可能です。長い小腸を詳細に観察することができます。

カプセル内視鏡：カメラを飲み込んで小腸全体を観察します。

【病理検査】

内視鏡で採取した組織を顕微鏡で調べ、良悪性やがんの種類を診断します。

- 最近では、ダブルバルーン内視鏡を行い、十二指腸より奥の病変においても生検により診断可能なケースも増えていますが、確定診断のために外科的切除が必要な場合も少なくありません。

治療について

小腸腺がんの治療は、進行度（ステージ）によって異なります。ステージの決定は主に下記に示す UICC-TNM 分類（第 8 版、2017 版）を用いて診断します。

	N0（所属リンパ節転移なし）	N1（所属リンパ節転移1-2個）	N2（所属リンパ節転移3個以上）	M1（遠隔転移あり）
T1a: 粘膜内癌	Stage I			
T1b: 粘膜下層				
T2: 固有筋層				
T3: 粘膜下層 [漿膜を破っていない腸間膜（注1）・後腹膜浸潤（注2）はT3]	Stage IIA	Stage IIIA	Stage IIIB	Stage IV
T4: 他臓器浸潤 [T3に該当しない腸間膜・後腹膜浸潤はT4]	Stage IIB			

注1：空腸/回腸のみ、注2：十二指腸のみ

治療法は以下のとおりです。

- 内視鏡的切除: ステージ I のうち、腫瘍が深部に入り込んでいないと判断される場合に適応となります。
- 外科的切除: 切除可能なステージ I から III における根治的治療の基本であり、腫瘍を含む腸管の切除を行います。小腸腺がんでは周囲のリンパ節を含めて切除します。
- 化学療法: Stage IV や術後再発時に行われます。小腸腺がんの化学療法は大腸がんの治療の一つであるフルオロウラシル（5-FU）やオキサリプラチンを用いることが一般的です。
- 放射線療法: 主要な治療法ではありませんが、症状緩和目的で使用されることがあります。

執筆者

- 氏名： 村田 悠記
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 消化器・腫瘍外科（消化管）

- 氏名： 飯田 忠
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 光学医療診療部

- 氏名： 中村 正直
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 光学医療診療部